

平成 30 年 12 月 12 日

狛江市議会議長  
小 川 克 美 様

総務文教常任委員会  
委員長 谷田部 一 之

### 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

#### 記

##### 1 調査事件名

オリンピック・パラリンピック等のおもてなしについて

##### 2 調査の目的

2020 年 7 月から、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が首都東京で開催される。全国の自治体でもオリンピック・パラリンピックに対してさまざまな気運の醸成が行われている中で、我がまち狛江でも各種スポーツ、スポーツイベント等を通じたオリンピック・パラリンピックのおもてなしは必要不可欠である。隣の調布市は、オリンピック・パラリンピックの会場になり、狛江駅はシャトルバスを使って会場に向かう入り口になることが期待される。そのためボランティアの育成・文化国際交流・環境整備や青少年健全育成等のおもてなし体制の充実は必須であるとともに、障がい者スポーツを推進するため、理解と楽しさを広げる啓発活動を今後さらに進めていく必要がある。

それらを踏まえ、他の先進的な自治体のおもてなしを通しての地域活性化の方策等を調査しながら、狛江市ではどのような取り組みができるか調査を行うこととした。

### 3 調査の結果

今回の委員会調査報告は、2020年夏に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、狛江市ではどのようなおもてなしができるか、東京都、先進自治体である小田原市、競技会場となる調布市に出向き調査・研究をした。

東京都では、オリンピック・パラリンピック担当部署と活発な意見交換をした。その中で担当者からは、パラリンピックの認知度自体は8割あるが、実際にパラリンピックの競技を見たことがあるという人が1.3%であり、パラリンピックの成功なくして東京2020大会の成功はないと言われた。

また、早くから東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に取り組んでいる小田原市は、近くに箱根もあり、日本でも有数の観光地であることから、その観光資源を生かして気運を醸成する取組みを行っており、特に訪日外国人対策として多言語対応、案内ガイド、Wi-Fi環境の整備に力を入れている。

オリンピック・パラリンピックの開催競技会場になっているのが隣の調布市である。調布市では、ラグビーワールドカップ2019の開会式、競技会場にもなり、世界各地から選手や観客等が来日してくる。オリンピック・パラリンピック競技大会の前哨戦として、ラグビーワールドカップの成功に特に力を注いでいることに熱意が感じられた。「2020年に向けた調布市の取組方針」においては、3つの視点「円滑な開催支援」「機運醸成・各分野の振興」「レガシー創出」及び5つのテーマ「スポーツ・健康づくり」「産業・観光振興」「まちづくり」「文化・国際交流・平和」「教育・青少年の健全育成」を掲げ、長期的、継続的に東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019による享受できる有形・無形のレガシーを創出し、調布の発展と多摩地域全体の振興につなげようとしていた。

狛江市でも、平成29年9月に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた狛江市の取組に関する方針」が策定され、また平成30年1月には、市若手職員で構成する狛江市東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等推進プロジェクトチームから2020プランが提案された。これら委員会視察等を踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた狛江市の取組みに関し、おもてなしを中心にレガシーの創出について次のとおり要望する。

## ① 環境整備

- 1) W i - F i 環境の整備
- 2) パブリックビューイングの実施
- 3) 狛江市の玄関口である狛江駅北口，南口に歓迎フラッグや多言語版案内情報の設置
- 4) 狛江市内学校，団体へ，各種大会へのボランティアの参加・育成
- 5) 公共施設バリアフリーの推進

## ② 文化・国際交流

- 1) 日本伝統文化である着物の着つけ体験
- 2) 「絵手紙発祥の地—狛江」として，絵手紙体験コーナーの開設
- 3) 「音楽の街—狛江」として，歓迎駅前ライブの開催や郷土芸能としてのおはやしの披露
- 4) 狛江市郷土資料を活用した取組みの推進強化
- 5) 近隣大学等と連携した留学生との交流
- 6) 海外都市との交流の模索

## ③ 障がい者スポーツの理解と楽しさと健康づくりを広げる啓発活動の促進

- 1) パラスポーツの講演会及び体験教室の拡充
- 2) 健康体操教室の拡充

3) 近隣市と連携したラグビーフェスティバル

④ 観光振興

1) 狛江市と提携している自治体の物産販売や狛江農産物販売

2) メビウス∞えきまえ広場を活用しての特設ブース等PR活動

3) 狛江市観光マップの多言語化

⑤ 青少年健全育成

1) アスリート交流事業の開催

2) 児童館等における異文化交流事業の開催

3) 児童館・学童クラブにおけるタグラグビーの推進

#### 4 調査の経過

##### ○ 委員会開催日（合計 13 回開催）

平成 29 年 6 月 13 日	所管事務調査事項を決定
平成 29 年 7 月 26 日	調査項目について協議
平成 29 年 9 月 14 日	調査項目を決定，今後の調査に必要な資料の要求
平成 29 年 10 月 30 日	資料に基づき市側より説明，質疑応答，委員派遣の決定
平成 29 年 12 月 12 日	現地調査の感想，質疑応答，委員派遣の決定
平成 30 年 1 月 29 日	現地調査の感想，今後の進め方について協議，委員派遣の決定
平成 30 年 3 月 7 日	今後の進め方について協議，委員派遣の決定
平成 30 年 4 月 25 日	現地調査の感想，資料要求，委員派遣の決定
平成 30 年 6 月 19 日	資料に基づき質疑応答，今後の進め方について協議
平成 30 年 7 月 27 日	調査報告書作成に向けての協議
平成 30 年 9 月 12 日	調査報告書作成に向けての協議
平成 30 年 11 月 1 日	調査報告書作成に向けての協議
平成 30 年 12 月 12 日	調査報告書決定

##### ○ 委員派遣

平成 29 年 11 月 21 日	東京都庁に委員 7 人を派遣し調査
平成 30 年 1 月 25 日	小田原市役所に委員 8 人を派遣し調査
平成 30 年 4 月 16 日	調布市役所に委員 8 人を派遣し調査